

気がつけば 函館市民に なつていた。

Vol. 10

土地の恵みと 東京一極集中

水の色が変わるほど魚の群れ

「シン漁華やかなりしへの北海道の海では、群衆がよく見られたといいます。群衆とは、産卵のため沿岸に押し寄せたシンの大群により海水の色が変わるという現象です。私は群衆を見たことはありませんが、話を聞いて、さすが北の海は豊かだったのだと感心したものです。

ところが、今になって初めて母から聞いたのですが、昔は母の故郷の滋賀県でも、秋口には産卵のため琵琶湖から遡上するアユで、川が真っ黒になつたというのです。

また私が小学生のころの夏休みのことです。叔父の車で琵琶湖へ泳ぎに行く途中、叔父が突然、「ウナギがいた」と車を停め、近くを流れる小川に入つて、大きなウナギを素手でつかまえてきたことに驚いた記憶があります。かつては日本全国、今からは

「シ」漁華やかなりしへの北海道の海では、群衆がよく見られたといいます。群衆とは、産卵のため沿岸に押し寄せたシの大群により海水の色が変わるという現象です。私は群衆を見たことはありませんが、話を聞いて、さすが北の海は豊かだったのだと感心したものでした。

時代の前半では、日本が世界一位の生産国だったそうです。

鉱山があったのは、都会ではなく地方です。地方には、地下資源にも恵まれた地域があったのです。北海道も九州と並ぶ炭田地帯であり、日本の一大エネルギー供給源でした。

東京一極集中を裏返せば

50歳まで大阪・京都で暮らした私は、関西経済の地位低下を目の当たりにしてきました。東京への対抗意識が旺盛だった関西ですが、今や有力企業の多くが本社機能を東京に移転しています。要するに、東京の方がビジネスがやりやすい。いわゆる「東京一極集中」の波に洗われてしまつたといつねでです。

関西ですらこのあります。地方の空洞化の裏返しとして東京一極集中

を考えられないほど、自然が豊かだったのです。

鉱産資源も豊富だった

マルコ・ポーロが「黄金の国・ジパング」と記したほどで、かつての日本は屈指の金の産出国でした。世界遺産の石見銀山は、最盛期に世界の銀の3分の1を産出したといいます。銅にしても各地に鉱山があり、江戸時代の前半では、日本が世界一位の生産国だったそうです。

東京でも全員が勝ち組になれない

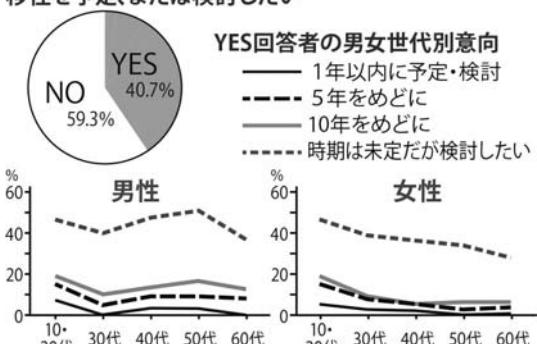
こんなことを書けば、お先真っ暗のようですが、私はそうは思っていません。首都圏にいれば、確かに雇用もチャンスも多いでしょうが、非正規雇用も増える一方。誰もが勝ち組に入れるわけではありません。

この男女と50代男性の移住に対する意識が高い」とのこと。立身出世を第一とした日本人のライフスタイルも、実際に地方に移り住んだ人の中には、「どう見ても勝ち組だったはず」と思える人も少なくありません。

久しづびに帰国した知人の娘さんは、東京の満員の通勤電車の乗客が、一様にスマートフォンにひめつこする姿に、背筋が寒くなり逃げ出したくなつたと言つていました。

東京在住者の今後の移住に関する意向(2014)
※首相官邸ホームページ発表データより作成

移住を予定、または検討したい



さて、近ごろは群衆も戻ってきているようです。今の時代に「シン御殿は建たない」でしょが、地方は自然も豊かで、暮らしやすいのは確かでしょ。それにしても、もう少し雇用が増えるとよいのですが。

るようですが、今は建たないでしょが、地方は自然も豊かで、暮らしやすいのは確かでしょ。それにしても、もう少し雇用が増えるとよいのですが。

★プロフィール★

おお にし つよし
大西 剛さん

大阪出身。
2011年秋より、函館に移住。
「新函館ライブラリ」を設立し、函館発の電子書籍・印刷書籍の出版に取り組む。
2012年には、2008年秋から函館通いで感じた町の魅力を綴った「新函館写真紀行」を出版。
現在は、移住サポーターとしても活躍している。